

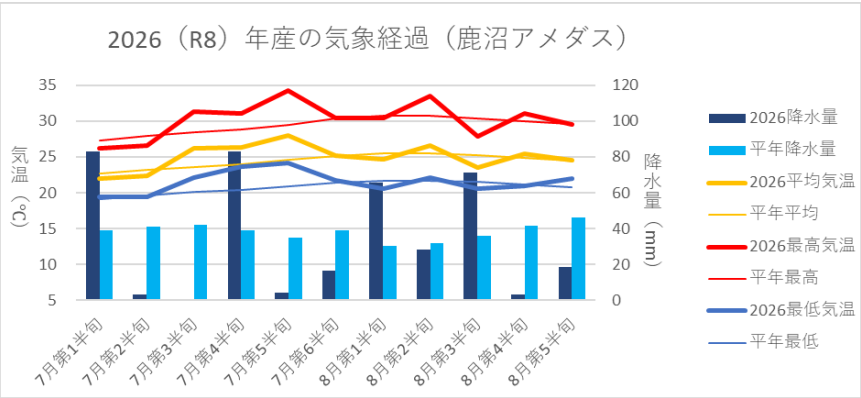
令和8(2026)年産 水稻生育診断速報第5号

令和8(2026)年8月28日
上都賀農業振興事務所

- 帯緑色もみ率 10%から収穫を始め、3%までに終わらせましょう。(刈り遅れに注意！)
- 収穫後は速やかに秋耕し、稲わらや稲株の早期分解を図りましょう。

気象経過(7月第1半旬～8月第5半旬・鹿沼アメダス)

平均気温は、7月第2～5半旬及び8月の第2半旬で高く、第3半旬で低くなりましたが、それ以外では概ね平年並に推移しました。期間の降水量は、台風や前線の影響もあり、時期によっては多く推移しました。



調査結果の概要(コシヒカリ)

過去5年の平均と比べ、出穂期は概ね「平年並」となりました。現在、登熟歩合は「高く」なっています。

表1 8/19 調査データ

調査地点	項目	稈長	穂長	穂数	1株穂数	1穂粒数	登熟歩合	葉色板		出穂期
		cm	cm	本/㎡	本/株	粒/穂	%	葉色板	SPAD	
日光市木和田島	今年	91.0	20.8	351	18.6	84.3	68.6	3.1	34.2	7/24
	過去5年平均	91.2	19.9	358	18.4	90.5	58.1	2.9	31.8	7/24
	平均との差・比	-0.2	0.9	98%	0.2	-6.2	10.5	0.2	2.4	0
鹿沼市久野	今年	89.4	20.1	381	23.8	77.5	71.3	2.9	34.8	7/23
	過去5年平均	85.6	20.3	349	21.7	89.6	55.8	2.9	31.4	7/21
	平均との差・比	3.8	-0.2	109%	2.1	-12.1	15.5	0.0	3.4	2

今後の技術対策

- (1) 適期に収穫を
ほ場をこまめに見回り、株をつかんで穂の下部の帯緑色もみ率10%から収穫を開始し、3%までに終了させ、刈り遅れにならないようにしましょう。

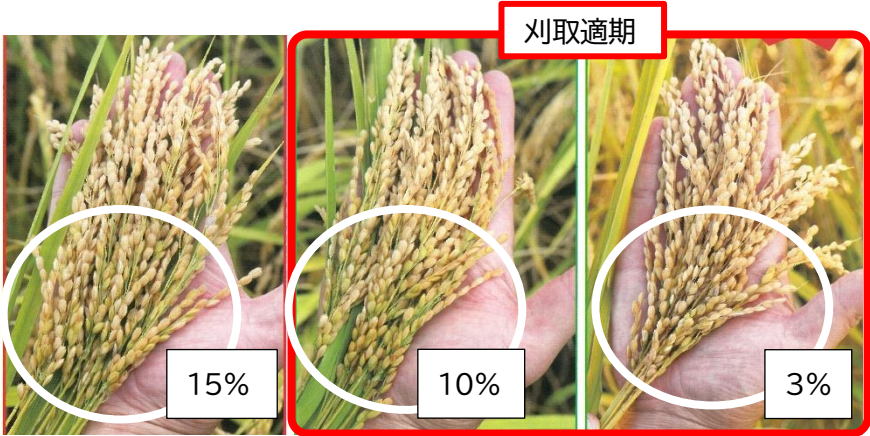


図 帯緑色もみ率の目安

- (2) 秋耕
収穫後は、速やかに秋耕を行いましょう。秋耕は稲わらや稲株の分解を早めることに加え、ひこばえ(再生稲)を抑えます。
ひこばえ(再生稲)は、ウンカやカメムシ類など害虫の越冬前の寄生場所になるので注意しましょう。